

将来の学び・多様性グループ

将来の学び・多様性グループの提案を始めます。

私たちのグループは、将来の職業選択や多様性について話し合いました。

このことについて、3つの提案をしたいと思います。

提案1 「子供達が将来の夢を描ける広島県」について

一つ目の提案は、「子供達が将来の夢を描ける広島県」です。

私は以前、スポーツ選手になりたいという夢がありましたが、どうやったらなれるのかなどわからないことが多くて、あきらめてしまいました。

また、民間の就職情報サイトのアンケートによると、「何をしたいかわからないまま就活を始める人が多い」という結果が出ています。

そこで提案です。小中学生の時に、職業体験活動や社会見学の機会をもっと増やしたり、保護者や地域の方に、自分の仕事の内容やなぜその仕事を選んだのかについて授業で話してもらったりしてはどうでしょうか。あわせて、この職業はこれくらいの給料だということも知りたいです。

そうすれば、自分に向いている仕事や興味が持てる分野に気づくことができるし、収入面からも将来の夢を見つけられます。体験を受け入れた会社の人も、子供達に自分の会社のことを知ってもらえて嬉しいし、子供達もその会社のファンになります。

こうした体験により、広島に魅力的な会社や仕事があると知ることができて、広島から出ていく人も減ると思います。

答弁（教育長）

「子供達が将来の夢を描ける広島県」についてお答えします。

小・中学生の皆さんが、地元企業の魅力に直接触れる機会を確保することや、保護者や地域の身近な人など様々な立場の大人の方から、直接話を聞く機会をもつことは、将来就きたい仕事へのあこがれを強くしたり、広島には魅力的な会社や仕事がたくさんあることを知ったりすることにつながり、将来の職業選択などに大変有意義であると考えています。

このため、小・中学校では、職場体験活動や社会見学を毎年行ったり、総合的な学習の時間などで学校の先生以外の大人の方の話を聞く機会を設けたりしているところですが、こうした機会がこれまで以上に充実するよう、県教育委員会では、県内の会社に更なる協力を働きかけ、皆さんの興味や関心に基づいて協力してもらえる会社や各学校の優れた取組事例を調べることができる学校向けのウェブサイトを作成中であり、今年中に開設する予定ですので、ぜひ活用していただきたいと思います。

皆さんには、職場体験活動や社会見学の時、仕事の内容について話を聞くだけでなく、「なぜこの会社で働こうと思ったのですか？」と質問するなど、興味や関心をもって積極的に参加するとともに、見たことや学んだことを家庭でも話題にして、家族の方の仕事の内容やその仕事を選択した理由などについても聞いてみてほしいと思います。

また、学校や地域の図書館にある職業に関する様々な本の中には、必要な資格など、どうすればその職業に就くことができるのかということや、給料について示されているものがありますので、興味がある職業について、ぜひ調べてみてください。

県教育委員会では、小・中学生の皆さんが、自分の得意なことや好きなことを生かして将来なりたい姿を描いたり、目標をもったりすることができるよう、職場体験活動や社会見学等の機会の充実に引き続き取り組んでいきます。

提案2 「誰にでも公平で多様な学びの機会がある広島県」について

二つ目の提案は、「誰にでも公平で多様な学びの機会がある広島県」です。

私は、最近不登校の子供が増えているというニュースを耳にしました。

県は、不登校の子供を支援するために、スペシャルサポートルームやSCHOOL”S”という居場所を作っているようですが、自分の家から通える範囲にSCHOOL”S”があるとは限らないし、外出が難しい子供もいると思います。

そうすると、民間の通信教育や学習塾、フリースクール等で勉強するということも考えられますが、それには費用がかかります。私は、全ての子供たちが公平で多様な学びの機会が設けられているのか、疑問に思うようになりました。

そこで提案です。学校で無償のオンライン教育を拡大してはどうでしょうか。

学校に行けない子供が自宅で授業を受けられるし、週1回程度フリータイムを設けて、先生と1対1で話しながら、自由に質問や相談ができる機会をつくると、不安解消につながります。また、欠席した時や復習したい時のために、授業のアーカイブをみられるようにすると思います。

私たちは、自分の学校で、どんなオンライン授業をして欲しいかなどについてアンケートをして、声を上げていくことができます。

こうした取組により、お金の心配がなくなり、外出できない子供にも、希望に沿った公平で多様な学びの機会を提供できる広島県に、一歩近づくとおもいます。

答弁（教育長）

「誰にでも公平で多様な学びの機会がある広島県」についてお答えします。

今回ご提案いただいた、オンラインを活用することについては、不登校等の子供たちに学びの機会を確保する有効な方法の一つであると考えています。

現在、県が設置しているSCHOOL“S”においては、来室しての利用に加え、外出が難しい子供たちともつながることができるよう、自宅等からオンラインでも利用できることとしています。

具体的には、身近な話題をもとにしたオンライン上でのスタッフや他の参加者との交流、博物館や美術館の学芸員による展示物の解説や、地域の企業のオンライン工場見学への参加などを行っているところです。

また、不登校の子供たちがタブレット端末等を使って自宅等から学校の授業を受けることができることや、学校の先生と保護者の方とで連絡を取り合うことができるなどの要件の下で、こうしたオンラインを活用した学習活動を行った場合に、出席扱いにすることができるといった仕組みも設けています。

加えて、市や町が設置している小・中学校のスペシャルサポートルームにおいても、教室での授業をオンラインで配信するなどの取組が進められているところです。

今後は、市や町のスペシャルサポートルームの整備を進めるとともに、一人1台端末を活用したオンラインの学習機会を充実するなど、誰もが安心して、公平かつ多様な手段で学習できる環境づくりに取り組んでいきます。

提案3 「LGBTQ+の方が暮らしやすい広島県」について

三つ目の提案は、「LGBTQ+の方が暮らしやすい広島県」です。

私はこれまで、ジェンダーに関する学習は本を読むくらいで、授業などでは受けたことがありません。

2023年に電通グループが約6万人に実施したアンケート調査では、LGBTQ+の方の割合は9.7パーセントという結果でした。私のクラスは45人なので、4人程度はいる計算になります。

しかし、私自身がLGBTQ+についてよく知らないため、LGBTQ+の友人に相談やカミングアウトされた時、どう接してよいか戸惑って、もしかしたら傷つけるような言動をとってしまうかも知れません。そして、同じことは、大人にも言えると思います。

そこで提案です。子供も大人も、LGBTQ+について、もっと知ることが大切だと思います。学校や保護者会、職場などにLGBTQ+の方に来てもらって、普段から抱えている違和感や生きづらさ等を聞く機会をもっと作れば良いと思います。どう接することが、LGBTQ+の方にとっていいのか、トイレや更衣室についてどんな希望があるのかなど、人によっても違うと思いますが、まず、知ることから始めてはどうでしょうか。

また、私がLGBTQ+について知りたいと思い、動画を検索した時に、サムネイルに難しい漢字が使われていてとっつきにくかったり、どれが信用できる動画なのかわからなくて困ってしまいました。

そこで提案です。県がLGBTQ+に関する正しい情報を、アニメや人気のインフルエンサーなどを起用して作り、発信をしてはどうでしょうか。

そうすることで、興味がない人にも親しみやすく、正しい知識を持ってもらうことができると思います。

私は今回、子供議員で話し合ったのをきっかけに、自分のクラスのみならずにもLGBTQ+について知ってもらいたいと思い、学校で使っているアプリで、LGBTQ+の知識や当事者の方が困っていること、私たちが気をつけることなどについての動画を作り、共有しました。今後、先生にも協力してもらい、学校全体に広める活動をしていきたいと思っています。

こうした取組が色々な学校や企業などで進むことで、LGBTQ+の方が暮らしやすい広島県に近づいていくと思います。

答弁（環境県民局長）

まず、一つ目の御提案であるLGBTQ+の当事者の方から、普段抱えている性別の違和感や生きづらさなどを聞く機会を増やす取組について、お答えします。

性的指向や性自認は、多様であり、例えば、からだの性とこころの性が一致しない場合や、好きになる相手が異性とは限らない場合があることや、また、そうした方々が、周囲の心ない好奇の視線にさらされたりして、苦しんでいることなど、LGBTQ+の方々が抱える生きづらさや困難について、社会全体で正しく理解し、多様性を認め合うことが重要です。

このため、県では、県民の皆さまにLGBTQ+について、身近な問題として捉えてもらうため、毎年度、約1万人の方々に参加いただく人権啓発イベントにLGBTQ+の方などをゲストにお招きして、御自身の経験をもとに、日常生活における生きづらさなどについて、お話をしてもらったり、企業等の人事担当者や自治体職員など、約200人を対象に、専門家の方からLGBTQ+についての基礎知識や、職場や暮らしの中で、どんな配慮が必要なのか知っていただくための研修会を毎年度開催しています。

また、中学校の社会や高校の保健の授業等で、性の多様性について理解を深めたり、学校によっては、関係機関と連携して生徒や教職員がLGBTQ+の当事者の方から、性について悩んだ体験や自分らしい生き方などについて聴いたりする機会を設けているところです。

御提案いただいた学校でLGBTQ+の方々の声を聴く機会を確保できるよう、引き続き努めていきます。

さらに、性の多様性に関する県民の皆さまの理解を広げていくため、市町や企業などとも連携して、人権啓発イベントや研修会に、より多くの方々にご参加いただけるよう、働きかけを行い、誰もが安心して自分らしく暮らせる社会づくりを進めていきます。

次に、二つ目の御提案であるLGBTQ+に関する正しい情報の効果的な発信について、お答えします。

県では、LGBTQ+について正しく理解していただくために、基礎的な知識や配慮の事例などを、イラストを使いながら分かりやすく解説した啓発冊子「性の多様性ってどういうこと？」を作成し、高等学校や市町、企業などでの研修で活用していただくとともに、人権啓発イベントで配布しているほか、県のホームページにも掲載しております。

また、人権啓発イベントでは、知名度や影響力のあるゲストによるトークショーを実

施しているほか、LGBTQ+について、身近に考えてもらえるよう家庭や学校、職場などの様々な場面を設定したドラマ仕立てで作成されたDVDの貸し出しを行っているところです。

さらに、法務省において、正しい知識を持ってもらえる各種動画の配信をホームページで行っています。

今後、御提案いただいた情報発信の手法なども参考にさせていただきながら、引き続き、若者世代を含め、幅広く、LGBTQ+についての正しい理解が進むよう効果的な情報発信に取り組んでいきます。